



清 泉

令和8年3月18・19日
昭島市立清泉中学校
校長 佐藤 晴美

昭島市立清泉中学校 〒196-0024 昭島市宮沢町1-9-1
電話042-541-0762 FAX042-541-6869 <http://www.city.akishima.ed.jp/~seisen/>

これからも主語「私」を大切に

3年生は9年間の義務教育を修了し、清泉中学校から羽ばたきます。清泉中学校のPR大使を務めてくれていた生徒たちです。地域ボランティアや昭島市総合防災訓練など、自らの意志で、新たなことにチャレンジしていました。その姿は確実に後輩へと引き継がれていくことでしょう。

毎朝の校内巡回。カウントダウンカレンダー。卒業まで三日のカレンダーにこんなメッセージが書かれていました。
「それぞれの道へ、残り三日」



4階のフロアに左のような掲示物が貼られています。「覚悟 あとは進むだけ」。このポスターは第2学年学級委員会によって作成されたものです。このことばから、清泉中の中心となる覚悟をもち、何事にも取り組んでいくのだという強い意志を感じるのです。しかし、これは清泉に残る1・2年生だけではなく、旅立つ3年生にとってはなおさらです。「自分」が決めた進路だからこそ、やるべきことをやり抜き、そして覚悟をもって「自分」を主語として、「それぞれの道」を大切に切り拓いていくことでしょう。

今年度も清泉中生は持ち前のよさと強みを発揮してきました。仲間のために、学校や地域のためにと、生徒たちは考え、いろいろな企画を提案しています。大きな提案ばかりが評価されますが、そうではなく日々の小さな積み重ねこそが礎です。生徒がその見えないかもしれない“コツコツ”を安心してできたのは、ひとえに保護者のみなさま、地域のみなさまの本校の教育活動に対するご理解とご協力のおかげです。ありがとうございました。そして、これからもよろしくお願いいたします。



第3学年「いのちの授業」から

卒業を間近に控えた3年生に人権擁護委員の紳様から「いのち」について授業をしていただきました。聴診器で自分の鼓動を聴いた後、「こころ」についても考えました。相手は何にも考えずに発した「ことば」が当事者にとっては大きな傷となる。改めて「ことば」について考える場面となりました。最後にお子様を亡くされたお父様からのお手紙をみんなで聞き、授業を終えたのです。

【生徒の感想】

- ☆一人の些細な一言で実際に命を絶ってしまった人の話を通して、自分の命と仲間の命を大切にしようと思った。自分の命（心臓）の音を聴いて、親からもらった最初のプレゼントだからしっかり最後まで感謝を忘れないように生きていきたいです。
- ☆初めて自分のいのちの音を聴いたけど、本当に生きているんだと実感した。この音を忘れずに生きていこうと思いました。
- ☆言葉に責任をもつ。そして困っていそうな、苦しそうな人がいたら声をかけたり話を聴いたりしたい。もし、自分が苦しい状況になったらこの授業を思い出して一人で抱え込まないようにしたい。
- ☆最近 SNS でいじめなどの動画がたくさんあげられている。自分はそれに対して「自分には関係ない」と思っていた。でもこの授業を通していじめに対する自分の心が変化した。この授業でもらった『心』は深い意味が込められていると思うので、今後も大切にしていきたい。
- ☆今回の授業はとても意味がありよかった。ですが、私は少し疑問もあります。先ほど、解決方法を教えてくださったのですが、家族に話すと「友人をつくる」などアドバイスされるが、友人は「場の空気」というもので変わる気がする。時に家族は「そんなの無視しなさい」とも言うけれどそれでは解決しないし、相談したくてもできなくなる。
- ☆自分の命は親が作ってくれ、親のおかげで生きているって感じた。俺は何にもできないただの凡人でちっぽけなことしかできないのは分かっているけれど、誰かが傷ついていたら話を聞くとか、相手の気持ちをちゃんと感じることはできると思う。俺は人を救いたいし、自分が困っていたら誰でもいいから味方でいて欲しい。

生徒の感想の一部です。素直に今の気持ちを表現しています。この気持ちに大人はどう応えていくのか、保護者・地域のみなさまとともに考えていきたいです。